



病気の予防や介護に理解を深める

瀬戸内市民病院フェスティバル

5月12日の「看護の日」にあわせて、瀬戸内市民病院（邑久町山田庄）で「みんなで健康！！地域も健康！！はじめてみよう楽しく病気予防」と題して、「第1回瀬戸内市民病院フェスティバル」を開催しました。

患者だけでなく、健康な市民に対しても、さまざまな体験を通じて、病気の予防や看護についての理解を深めてもらうために企画。会場では、身体計測や足指力測定を行う健康チェックや、フットケア体験（足浴）、健康に関する展示、オシメのあて方講習会などが行われ、来場者は楽しみながら、さまざまな体験をしていました。



1食に食べる野菜の目標量を実際に手にして確認（左下）／フットケア体験（右上）

錦海塩田跡地の周辺約10キロを歩きました

地域再発見ウォーキング



①恐竜化石の解説に聞き入る参加者／②新緑のなかを歩く／③学芸員の話聞いて、製塩の歴史を学ぶ／④錦海塩田を歩く参加者

5月12日、中央公民館の主催で、地域再発見ウォーキングを開催しました。市内外から約80人が参加し、新緑がまぶしい錦海塩田跡地周辺（約10キロ）を歩きました。

林原自然科学博物館の職員から恐竜の化石などについて話を聞いてから、ウォーキングを開始。

大嶋公園（邑久町尻海）では、地域の人から、大正時代に暴風雨により遭難した1人の漁師を地域の青年漁師たちが命をなげうって救った「青年の美拳」の話などを聞きました。

その後、農耕地の拡大のために築かれた安田堤防（牛窓町長浜）を見ながら歩き、牛窓浄化センター（牛窓町牛窓）へ到着。

昼休憩の後、瀬戸内市社会教育課の学芸員が周辺で発見された製塩土器や錦海湾の製塩事業の歴史について解説しました。

続いて師楽コミュニティハウス（牛窓町牛窓）では、地域の人から塩田跡地で見られる野鳥の話などを聞き、最後は、瀬戸内海を臨む錦海塩田（約2キロ）を歩きました。

教育分野、保健福祉分野で連携

就実大学・就実短期大学と包括連携協定

5月11日、就実大学・就実短期大学と瀬戸内市は、包括連携協定を締結しました。

この協定により、知的・人的資源の交流および文化資源を活用できることになり、教育、文化、保健、医療、まちづくりなどにおいて、活力ある地域社会の創造、人材育成および両者の発展が期待できます。今後、教育分野、保健福祉分野での連携事業などを行っていきます。



協定書に調印後、握手を交わす押谷善一郎学長（右）と武久頭也市長

摩擦熱を使った火おこしなどを体験

第17回須恵古代まつり



会場を盛り上げた吹奏楽部の演奏（左下）／子どもたちに人気の火おこし体験（右上）

5月3日、須恵古代館周辺（長船町西須恵）で第17回須恵古代まつりが行われました。

開会式の後、長船中学校吹奏楽部・邑久中学校吹奏楽部による演奏で、周辺はたちまちにぎやかな雰囲気。また美和つ太鼓、とつかあず、名刀太鼓による太鼓演奏なども会場を盛り上げました。

木の棒と板をこすり合わせ、その摩擦熱で綿毛に着火する火おこし体験も子どもたちに大人気。

もくもくと煙が上がり、火がおこった瞬間には、「ワッ」と歓声が上がっていました。ここでおこした火は、2月に美和小学校児童が作ったはにわの焼き入れに使いました。

華やかな一行がゆっくりと練り歩きました

弘法寺の脚供養

5月5日、千手山弘法寺（牛窓町千手）で県指定重要文化財（民俗文化財）の脚供養が行われました。

脚供養は、良い行いに励む人を阿弥陀如来が聖衆とともに極楽浄土へ導く様子を劇化した行事です。弘法寺の脚供養は、日本三大脚供養の一つとされており、その歴史は鎌倉時代まで遡ることができ、本来の姿をよく留めています。

東壽院を出た一行は、導師から中将姫の像が受け渡されると、僧侶、稚児などを従えて、阿弥陀如来像（被仏）の待つ遍明院までゆっくりと練り歩きました。



練り歩く稚児ら（左上）／遍明院に到着した一行と出迎える阿弥陀如来（右下）